



突然女体化した俺が
入院した病院で
ナースとのエッチな入院生活



なんだか身体がダルい。。。
気温のせいかな？
最近夜も全然寝れないし。。。
たまにはまとまった休みが欲しい。。。
そりでもないところろ身体おかしくなりそう。。。
///



「はあ...」
もう少しで繁忙期も終わるから
そしたら有給でもとるか...
取れるかわからんだけど...



それにしても今日は一段と身体がダルい。。。
まるで、自分の身体じゃないみたい。。。
せめて帰ったらすぐに横になりたい。。。





「あの…大丈夫ですか？」

「は？あ…はい…」

俺…周りからも具合悪く見えてる…？」

「ちよつと病院とか…」

「もしもでしたら救急車呼びますよ？」

「だ、大丈夫です…」

「自分でいけますんで…」

「そうですか…もしなんかあれば言ってくださいね？」

「親切にありがとうございます…」



「え？」
「何かしましたか？」
「あつ……いえ……その……」
「ヤバイ……フワフワして来た……」
「マシで病院行……」
「お姉さんも心配してる……」
「この後、病院行って来ます……」
「あつ……は……」



「はぁ……」
胸が苦しい……
病院行こう……
周りの視線もやばい……
俺が思ってる以上に深刻かも……

洗面所

『ん？』

あれ。。。これ窓じゃなくて鏡だよな。。。

え？女？

え？

夢。。。？





まるで女みたいだ……
胸がある……？
どうなってんだ……？
早く病院に行ってみてもらわないと……

さっきまでの熱とかフラつきは無くなったけど
これは絶対に異常だ……
そうか……あの時のみんなの態度って
こういうことだったのか？
俺が急に身体が変化したから……





と。。。とりあえず病院に急ごう。。。！
でもどの病院だ？
いや、迷ってる暇もない！
ひとまず、総合に行けば何かわかるか？

「なるほど・・・」

「身体が急にね・・・」

「原因とかってわかりますか？」

「うーん。こんなには初めてだよ・・・」

「嘘はついてないと思うが・・・」

「俺・・・嘘なんて！」



「ああわかつてるよ」

「すまない。すまない。」

「ただ、今すぐに原因がわからないのも事実……」

「少々、検査入院してもらう必要があるな」

「それで原因がわかればいいし」

「何か手がかりがつかめるかもしれない」

「はい……わかりました……」



そんな訳で俺はしばらく検査入院をすることに
こんな形だが、しばらく休めるのはありがたい。。。
でも、今は休みよりも自分の身体に起きてることが。。。
この入院中に分かればいいんだけど。。。



それにしても女の身体か・・・
一応は俺の身体なんだし触っても別にいいよな？
女の身体なんて触った記憶が・・・



「んっ…」
なんか思ってた感じとは違う？
もう少し興奮というか…
なんか感じると思ったんだけど…
自分自身だから？
意外と何も感じない…

毛ミ

毛ミ





「田中さん」
「え！あつはい！」

「あら？何してたんですか？」

「え？あついや……」

「ふふ……自分の胸とか触つて……」

「いやらしい事しよう？」

「そ、そんな事は……」



「ふふ。冗談ですよ！」

「急にこんなことになったんですもん！」

「気にならない方が不思議ですよ！」

「アハハ…そうですよね…」



「それはそうと体調はどうですか？」

「ダルいとか痛みとかはありますか？」

「あつそれは大丈夫ですね…」

「熱も今はないみたいですし」

「ダルさももうないです」

「そうですか！ならよかったです！」

「そうした採血して身体を拭きましょうか！」

「あつはい…」





「はい…」

「これで採血は終わりです！」

「ありがとうございます」

「いえ！それじゃ身体を拭いて行きますので…」



「え！自分でできますよ！？」

「ふふ…ダメですよ！」

「特に今日は、女の子の身体はデリケートなんですから」

「私がしてあげます！」

「拭き残しがないように♡」

///

ギン





「あっ……！」

「ふふ♡」

「優しく拭いてあげないと傷ついてしまいますから……」
人に触られると……変な気分……」

「綺麗に拭いてあげますから♡」



「うっ…はあ…」

「どこか…残りやすいですから…♡」
「変だ…なんか変だ…」

「顔…赤いですよ？」

「熱でも出て来ました？」

「いや…これは…」

ドキ

ドキ





「結構敏感なんですか?♡」

「いや...そんなことは...」

「すごく可愛い反応ですね♡」

「私...すごく好きですよ♡」

「え...?」

イチャッ



「なにとか……♡」
「あー！ちよん……♡」
「どいっ触ってー♡」



「ふふ♡こんなに勃起ちゃつて♡」
「本当は感じてたんじゃないですか?♡」
「なに?この身体中に走る感覚は...」
「い、やめて...ください...」
「はい?よく聞こえませんか?♡」



「はあ。。。はあ。。。」

「これ。。。気持ちいいですか？♡」

「私は。。。こういうのすごく好きで。。。♡」

「されるのもするのも興奮すんですけど。。。」

「田中さんは。。。どうですか？♡」



お腹のあたりが熱く……

「はぁ……あつ……」

「もつと……感じて欲しいな……♡」

「例えば……もつと下の……」

下……下……



「田中さんはどうして欲しいですか？」
「もつと気持ちよく…なりたい?♡」
「それとも…」まで?」
「はあ…それは…」
もつと…して…ほしい…



「あつ...」
「もう時間...」
「え？」
「ごめんなさいね？もう次の患者さんのところに行かないと」
「え...そんな...」
「また続きしましょうね？♡」

ああ・・・あんなところで終わりだなんて・・・

どうしよう・・・まだ変な気分だ・・・

どうにかしてこれを解消しないと変になりそう・・・

でも、ここでするわけには・・・

トイレなら・・・誰にも見られずにできるかな・・・？

ムウ...

ムウ...



「あれ？田中さん？」

「え？」

この子は……

「どちらさん？」

「あ……ちよらとイトレ……」

「そうですか。1人でいけますか？」

「あつでも、田中さんつて……」



「ああ……その……だ、大丈夫です！」
「えっと多目的とかで……しますから……」
「いや……それもそうなんですけど……」
「？」
「1人でできます？」



「私が一緒に行きます!」

「え?」

「だってその身体でするの初めてですよね?」

「ならついて行ってあげます!」

「いや!大丈夫ですよ!忙しいでしょうし!」

「ふふ!大丈夫ですよ!さあ!行きましょ!」

マシ...?



「ここで待ってますから何かあったら言ってきたさあね」

「あ…はい…」

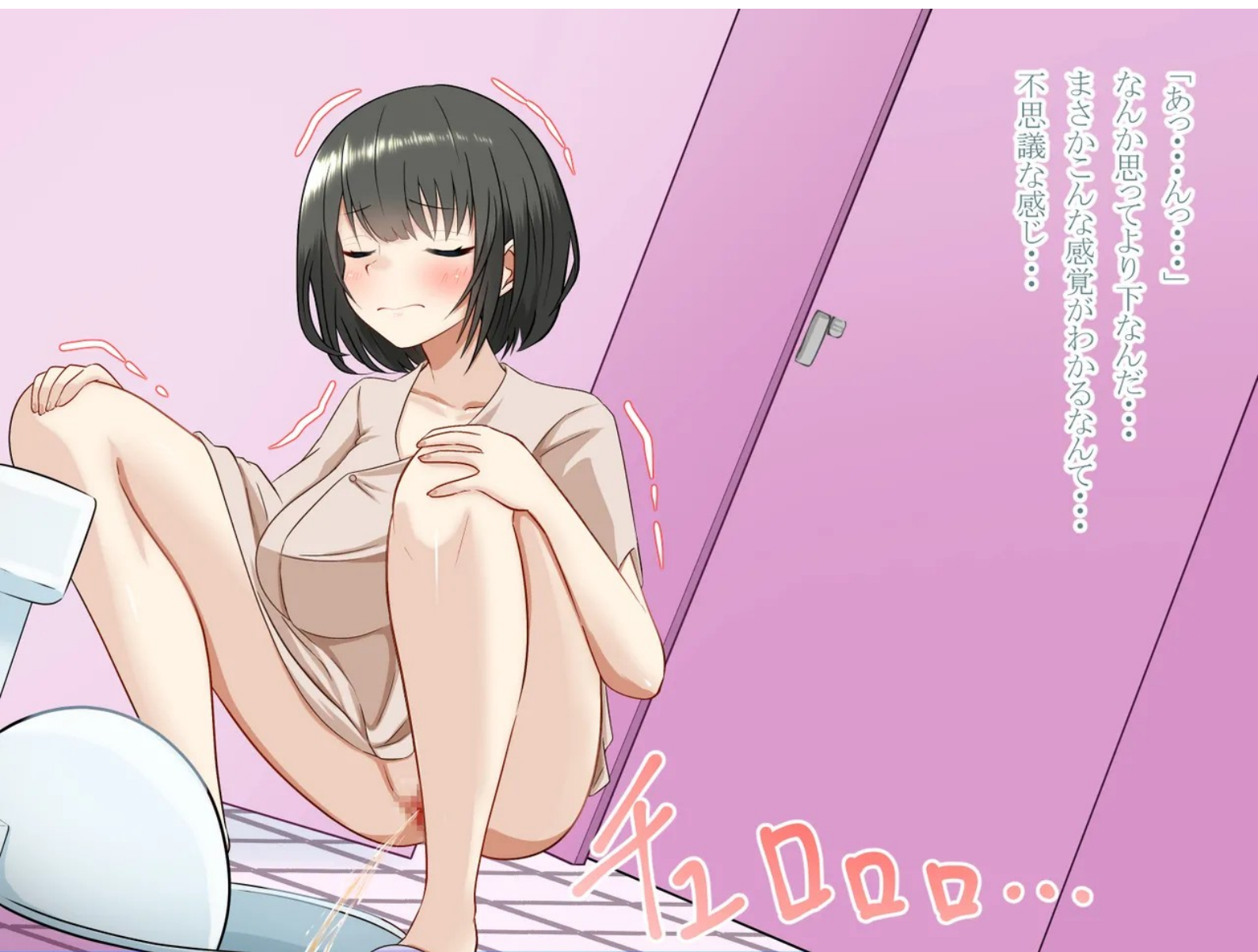
流星にこの状態ではな…



「あっ……んっ……」
 なんか思ってたより下なんだ……
 まさかこんな感覚がわかるなんて……
 不思議な感じ……

まさかこんな感覚がわかるなんて……

42000...



「ふっ…」

病室戻るか…

また隙を見て、処理できそうなら…





「終わりました？」

「え！？」

「ちよつとなんでも入ってくるんですか！？」

「ちゃんと拭けるか気になって♡」

「ふ、拭けますよ！」

「そうですか？♡ふふ♡」



「でも初めてなんですから私が拭いてあげますよ♡」
「そんなことまでしなくても…」
「適当にされても後で困りますから♡」
「きちんと綺麗にしてあげます♡」



「わっ」

「ふふ♡ほら…早く拭かないと♡」

近い…いい匂いもする…

いやいや違う違う！

バタッ



「はっ…」

「うっ…ちゃんと綺麗にしてあげますから♡」

「やばい…なんか変な感じがする」

「さっきのとは違う感覚…」

「優しく…優しく♡」



「はあ...じ...自分で...」
「で、できますから...はあ...あつ...」
「遠慮しないでいいですよ♡」
「私がしてあげます♡」
「おかしくなる...変な気分...」



「あれ？拭いても拭いても・・・」
「まだ濡れてる・・・♡」
「どうしてですか？♡」
「もしかして・・・感じてます？♡」
「そ、そんな・・・わけ・・・」





「本当は……いじられたかったんですよね？♡」

「えっ？♡」

「えっ？バレてるの……？」

「ふふ♡わかりますよ♡」

「見てたら……♡」



「こんなに糸引いてる♡」
「このシチュに興奮とかしてます？♡」
「そ、それは...」
「私は興奮して来てますよ♡」
「どうですかー♡♡♡」
「え...」



「女の子の身体で気持ちよくなりたくないですか?♡」

「私なら気持ちよくできますよ♡」

「あなたの身体♡」

「...」

「すぐドキドキしていますね♡」



「恥ずかしい…」
「ふふ♡最初はそうでうよね♡」
「でもすぐに気にならなくなりますからね♡」
「う…」
「ちよつと広げますね♡」



「あら...すごく綺麗♡」
「こんなに糸引いちやって♡」
「すごーえっちはすね♡」
「うう...あんまりジロジロ見られると...」
「これ...めっちゃ興奮する...」



『ふふ♡興奮しちゃいます?♡』
『いいですよ♡どんどん興奮して濡らしちゃってください♡』
『その方がたくさん気持ちよくなれるので♡』

ドキ

ドキ

ドキ

キュン♡





ドゥ

ハ

バグ

「あつ...はあ...

「気持ちいいですよね♡」

「もうこんなに勃って♡」

やばっ...ムム...

気持ちいい...

ムム♡

ムム♡



「中にも入れますね♡」
「痛かったら言ってください♡」
「へ…はあ…」
中…



「んっ!んん...あつ」
「簡単に入って行きますね♡」
「指すごく気持ちいい♡」
「入って来てる...この感覚...
いいかも...」



「どこかもうですか?♡」
「私...ここすごく好きな場所なんです♡」
「あつ...はあ...あんっ!」
気持ちいい...そこ...気持ちいい...





「愛液がたくさん♡」

「可愛い♡はあ♡」

熱い…お腹のあたりが…

何か上がってくる…!!

「あっ…いっっ…」



「はあああああ！」
「あつ♡」
我慢できないい！
やばいいい！



「はぁ...はぁ...」

「すごい吹きましたね♡」

「気持ちよかったですか?♡」

力が...入らない...

こんなに気持ちいいの初めてかも...

「立てますか？♡」

「は…はい…」

「なんとか…」

「無理しなくてもいいですからね♡」

「ちよつと休んだかお部屋に戻りましょうか♡」

「はい…」





「また何かありました…呼んでくださいね♡」

「はい…ありがとうございます」

また…呼んでシテもらって…

いや…こんな不純なこと…

「いんですよ♡何でも♡ふふ♡」

「え！あつ・・・はい」



今日はすごい日だったな。。
今でもドキドキしてる。。
いつまでこの生活できるかな。。
もしかして今夜も。。
いや、流石に。。それはないか



「田中さん」

「あ、はい」

あんな新しい人だ。。。



「お風呂の時間ですよ」

「えっお風呂？」

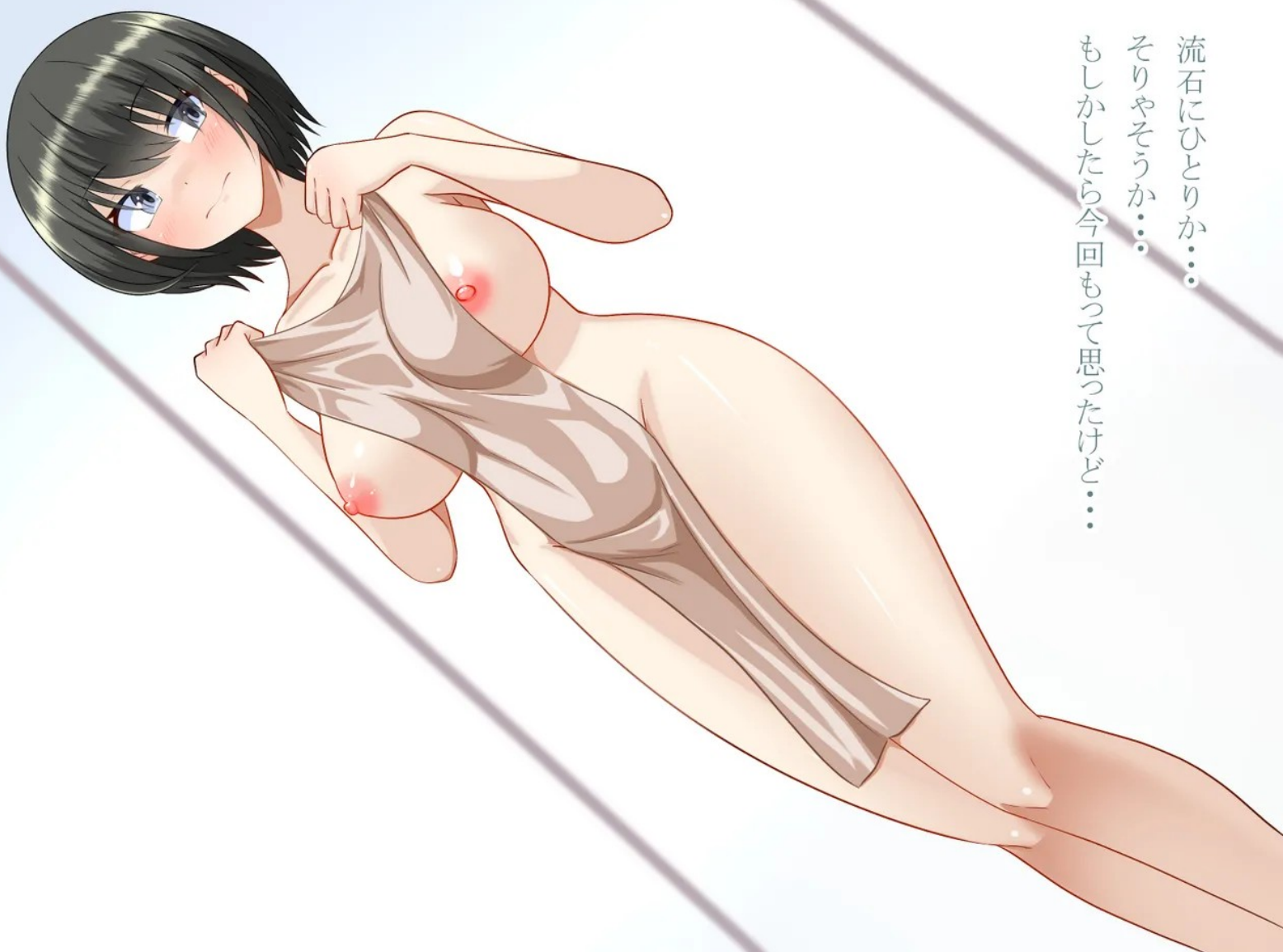
「はい？」

「動けますか？」

「...」



流石にひとりか・・・
そりやそうか・・・
もしかしたら今回もつて思ったけど・・・



でも改めて自分の全裸見ると…
いやいや自分の身体だ…
それに興奮するとか変だろう…
変なこと考えずに早いところ済ませて上がろう…



ちやつとだけ・・・
バレないだろう・・・
オ●ニーしても・・・
せつかくだ！
今のうちに・・・
よし！そうしよう！



「ふう……」
一通り洗ったし……
ちよつとだけ……



なんかすごいドキドキしてきた…
なんか悪いことしてる気分…
でもこの身体は俺の…
俺の身体なんだから好きにしてい…





「ちゃんと洗えました？」

「え！」

ナースさんの声！？

「洗ってあげましょうか？♡」



「なんで裸なんですか!？」
「ここはお風呂場ですよ？」
「裸なのは当然ですよ？」
「いや……その……」
嘘……まさか!



「洗い残しはダメですからね♡」

「ほら・・・私が丁寧に洗ってあげます♡」

「あの・・・その・・・」

「この展開・・・本当に？」

「お、お願いします・・・」



「ふふ♡はい♡」
「綺麗にしますね♡」
「はあい・・・」



「それにしても綺麗な身体♡」

「羨ましいです♡」

「そんなことは・・・」

「私・・・あなたみたいなタイプです♡」

「え？」

「だから・・・たくさんサービスしてあげます♡」





「あつ・・・そこは・・・！」
「ふふ♡どうしたんですか？♡」
「あれ？すごく熱いですよ？♡」
「それは・・・シャワーの・・・」
「本当ですか？♡もしかして・・・」

「オ●ニーしようとしてたんじゃないですか？」

「！」

「そんなことは……」

「もしかして嘘つけないタイプですか？」

「バレバレですよ♡その反応♡」





「でもこんな身体ですもん♡」
「したくなりますよね♡」
「私だったら我慢なんてできませんよ♡」
「ましてや、男から変わったのならなおさら♡」
「あっ！」



「女の人に…♡」

「責められるのは好きですか？」

「こういうの想像してたんじゃないですか？♡」

「昼間も2人としてたんですよね？♡」

「え！」

「話してましたから…」

「羨ましくて…今回は私に変わってもらったんですよ♡」

「私も・・・あなたと・・・」

「えっちしたくて♡」

「あなたはとうですか?♡」

「え・・・」

「私とえっちなことしたくないですか?♡」

それは・・・そんなの・・・





「し・・・したい・・・」
「したいです・・・!」
「ふふ♡よかった♡」
「じゃあしましょうか♡」

「はい…♡」

「お願いします…♡」

ここ最高だ…

もうしばらくは入院してたい…!!





「すごい♡」

「この音聞こえます?♡」

「すごくえつちな音♡」

「この音大好き♡すごくえつちな気分になります♡」

「あっ♡はあ♡」



「私…結構上手いって言われるですよ♡」

「どうですか?♡」

「はぁ…あつ♡」

「き…気持ちい…です…♡」

「あは♡嬉しい♡」



「ああ♡」

本当に…気持ちいい…

身体がおかしくなる…

「私にイクと…見せてくださいね♡」

「はあ♡はあい♡」



「ああ♡はああ♡」

「音がどんどん大きく♡」

「量も♡」

もう…我慢できない…!!

いきそう…!!

「い…イクッ!」

「はあ♡いいよ♡」



「んんっ! あああああ」
「ふふ♡かわいい♡」



「はあ...はあ...♡」
頭...真っ白になる...
「気持ちよかったですか?♡」
「私の手♡」
「はあい...♡す〜♡...♡」

『ほめ。。。』

すごく疲れた。。。

でもすごく気持ちよかった。。。

今日はぐっすり寝れそう



それにしても俺はいつまで
この身体でいれるんだろう？
こんな思いができるなら
このままでもいいかな。。。
「。。。」



「おっ」

？誰が入ってきた？

巡回のナースさんかな？

こんな時間まで大変そう。。

ガチャ

あれ？俺のところで止まった？



「あ♡起きてる♡」
「こんばんは♡」
「え。。。ナースさん？」
「昼間はぐっすり♡」
あの時の・・・





「夜這い……♡」

「しに来ちゃいました♡」

夜這い……？夜這いつて……あの？

「昼間の続き……♡」

「3人でしません？♡ふふ♡」

『…はい♡』

『あら♡すんなり？♡』

『ちよつとは戸惑うと思ったけど、よかった♡』

『じゃあ♡しましょうか♡』

夢の…3P♡





「あつ…でも、音で…」

「ふふ♡そんなこと気にしてるんですか？♡」

「大丈夫ですよ♡」

「みんな今日は起きないですから♡」

「え？なんで…？」

「ふふ♡田中さんが気にしなくていいですよ♡」



「だから安心して声も出していいですから♡」
「私たちも我慢しないですから♡」
「思いつき気持ちよくなりましょうね♡」
ちよつと気になるけど。。。
それより今は。。。
「はい♡」

『こういうの興奮するね♡』
『ええ♡すっごく♡』
すげえ。。。本当に夢みたい。。。
『今夜は長くなりそう♡』



『すごく柔らかいおっぱい♡』

『肌もすべすべで…♡』

『触っただけで濡れちゃう♡』

『私も♡』

『あなたはどうか？♡』

『そんなの…決まってる…』







「はあい♡」

「そうかもしれない…です♡」

「素直な子♡」

「すごく好きよ♡」

「私も♡ふふ♡」



「あっ♡はああっ……♡」
「ああ♡もうイっちゃった?♡」
「でもまだ出来るよね♡」
「はあい♡大丈夫です♡」
「はあ♡はあ♡」



「もっと濡らしていいからね♡」

「びちよびちよにしよう♡」

もう我慢しない...

いやだきょうになっちゃう...

「おふふ...うんぱんぱん♡」



「入れますね♡」

「んっ♡はぁ♡」

この入ってくる感覚...

病みつきになる...

「あら♡この子...」

「この感覚好きみたい♡」

「えっちなおま♡♡」



「あはは♡すごい締め付けてくる♡」
「私の指気持ちいい?♡」
「はあ♡す♡」
「これは名器になるかもね♡」
「もうめちやくちやにしたい♡」



中。。。気持ちいい。。。！
手。。。気持ちいい。。。！
もっ。。。もっ。。。もっ。。。！

「私に付いてたら射精しちゃうよ♡」



「はぁ♡あぁ♡」

「すごくえっちな顔♡」

「もっこの表情みたい♡」

「熱い...また熱いのが...」

「あつ♡またイキそう?♡」

「私たちの前でまたイつてるとこ見せて♡」



「イクッ！イきますっ！」
「ふふ♡いっ♡」



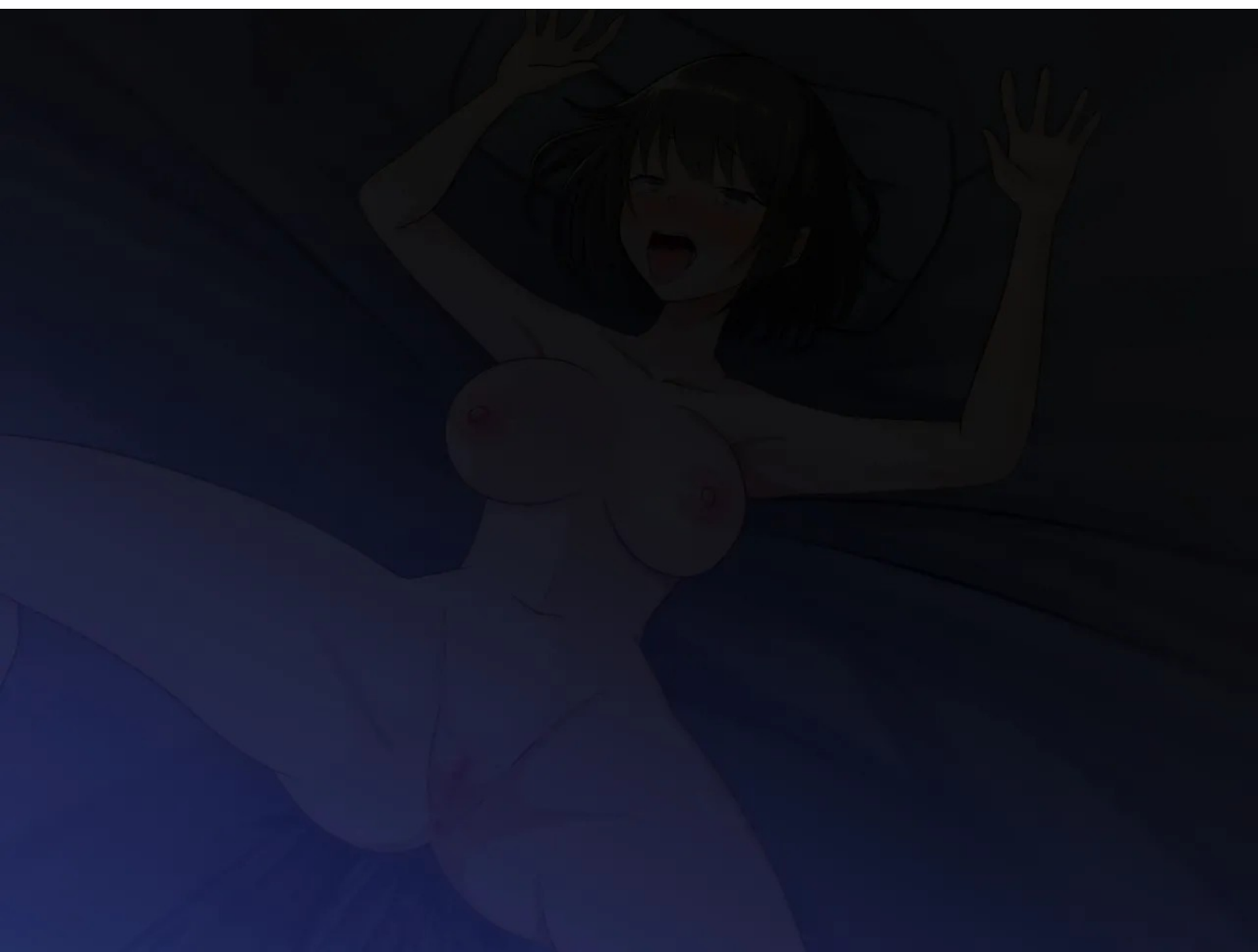
「んああああああ♡♡♡♡」

「きゃ♡♡」

「はぁ♡ん♡ん♡♡」







あれ・・・？

朝？

あのまま寝ちゃったのか？

「おはようございます」



「あひ・・・おはようございます」
ん？あのみま・・・？



「あつ！」

「どうしました？」

あれ？服着てる…

あの後…どうしたんだろ？

着せてくれた？それとも夢？



「どうかしたんですか？」

「あついや…ちよつと…あはは」

「夢だったかもです」

「夢？」



「もしかして…夜に何かありました？」

「え？」

「例えば…夜こでえつちしたとか？♡」

「！」



「ひひ♡知ってますよ♡」

「あの子たちとしたんですよね？」

「昨日の夜に♡」

「羨ましい…私、夜はいなかったから参加できなかった…」





「だから今日は私が♡」
「思いつき楽しもうかなって♡」
「え！」
「いいですね？♡」
「私もしたいです♡」
「あなたとえっち♡」
「昨日だと足りないです♡」

「あっ…はい♡」
「お願いします…♡♡」
「ひひ♡♡」





「実は今日はこんなの持ってきたんです♡」
「それ・・・」
「これで一緒に気持ちよくなりましょう♡」
「さあさあ♡」
「服・・・脱がしますね♡」



「ああ♡やっぱりいい身体♡」
「えつちな気分になる♡」
「このすべすべな肌に…♡」
「あっ♡」



「ふっも♡」

「んっ♡そんないきなり・・・」

「ごめんなさい♡でも私も我慢できなくて♡」

「あなたもですよね♡♡」

「もうこんなに♡」

ふっ♡

ふっ♡

「ほら♡」

「こんなに糸引いてますよ♡」

「あんまり見せないで…くっださい…」

「なんですか？♡こんなえっちなのに♡」

「恥ずかしいですよ…♡」

「もう可愛いですね♡」





「これくらいもう濡れてるなら♡」
「早速これ…使ってみます?♡」
「はい…でも…」
「ふふ♡優しくしますよ♡」
「うう…お願いします…♡♡」



「あつ♡はあ...♡」
「んんっ...♡」
ふ、太い...でも気持ちいいかも...
「入ってく...♡ああ♡」



「はあ♡はあ♡」
「入ったね♡はあ♡」
「これで私たち繋がったね♡」
「繋がった...ナースさんと...」
「はあ♡嬉しい♡」





「あっ！はあっ♡」

「んっ♡ああ♡」

すごい…中で動いてるのが…

かき回されてる…

すごくエロくて…気持ちいい



「かわいい♡」

「腰止まらない♡はあ♡あつ♡」

すごい…ナースさんの…

俺の中に流れ込んでくるみたい



「えっちな音♡」

「どんだん濡れちゃう♡」

「ちよつと。ペースあげちゃいますね♡」

「あっ♡はあい♡んっ♡!♡」

「はあ♡はあ♡」



「ああ♡気持ちいい♡」

「気持ちいいよ♡」

「もう止まんないよ♡」

「はあ♡あつ♡」

もうえつちのことしか考えられない…





「んんっ♡はぁぁぁ♡」

「ぁぁぁぁぁ♡」

「股が…熱い…」

「中も…外も…!!」



「はぁ♡あはは♡」

「あさイチでヤルの気持ちいいですね♡」

「はぁ♡はぁ♡」

「はぁ♡♡すごく気持ちいい♡」

数日後

「早く私も♡」

「はぁ♡あんっ♡」

「今日も可愛い♡」

「嬉しいです♡」

俺の身体が男に戻ることは現在ない…
いつ戻れるかも原因もまったくわからない…



しかし、そんなことはどうでもいいと思ってる
今はこの時間が幸せだから…
毎日のようにナースたちと…





俺の身体はどんどん快楽を求めていく...



突然女体化した俺が
入院した病院で
ナースとのエッチな入院生活

突然女体化した俺が
入院した病院で
ナースとのエッチな入院生活

次のページからおまけページになります！

読んでいただきありがとうございます！

まぐら









































